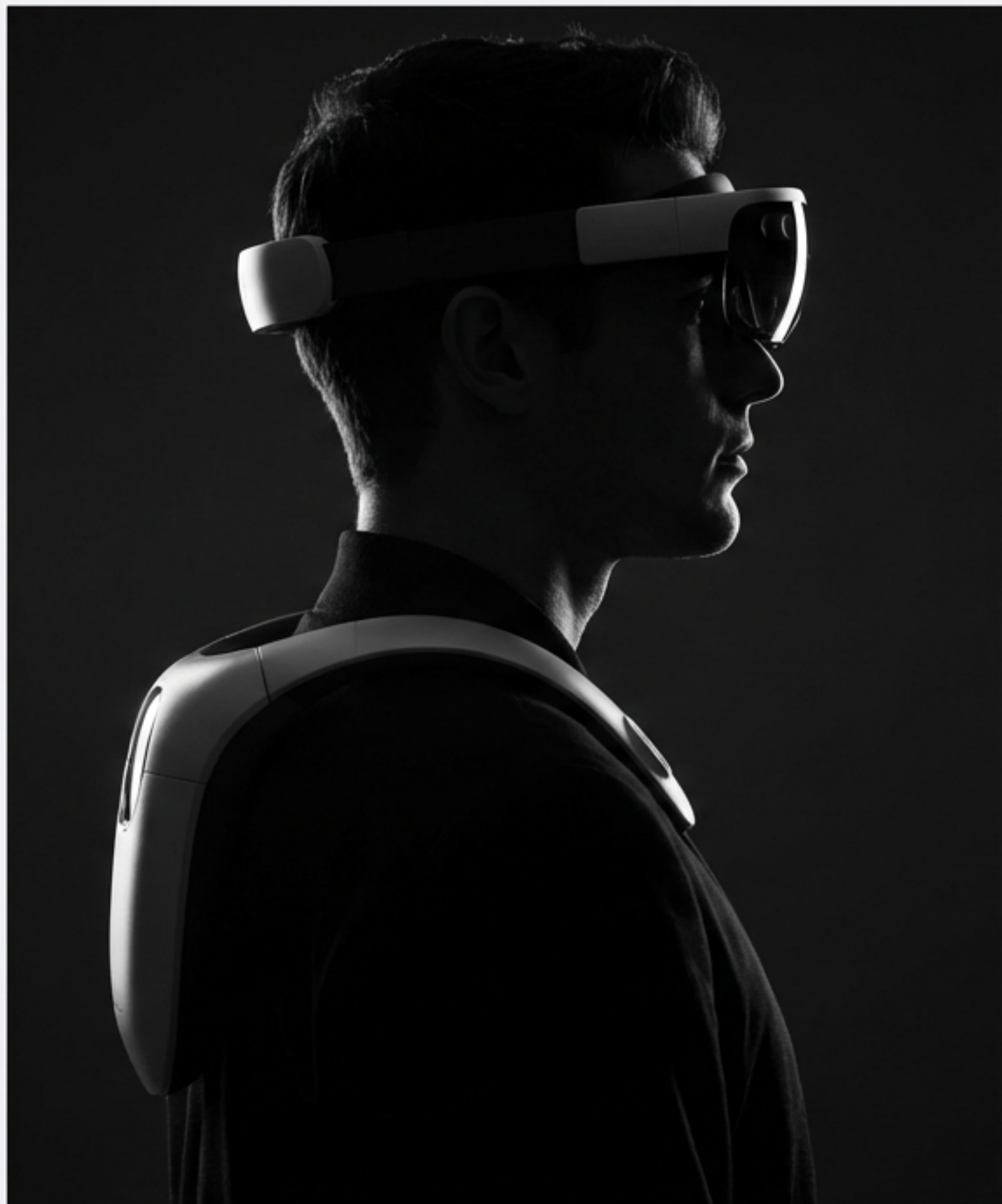




視覚障害者の「歩行」と 「読書」を再発明する。

プロジェクト：Real Eye-ball Father（リアル目玉親父）

構想30年。「犬」の代わりではなく、
あなたの目となり、判断する「電子の相棒」。

BEESNEST LLC | 2026

30年越しの悲願と、技術の到達点

1990s



Webカメラが登場した頃からの構想。「これを肩に乗せて、全盲でも本屋で立ち読みができれば」。
しかし、PCの小型化とAI技術が追いつかなかった。

2026



エッジAIの実用化。クラウドに頼らず、
バッテリー駆動の小型デバイスだけで
高度な認識が可能に。

「作れるかどうか」の時代は終わり、「**どう作るか**」の時代へ。

圧倒的な供給不足：盲導犬という「誤差」



200,000人

日本の全盲者数（推定）

← 1,000頭未満
(国内活動盲導犬数)

盲導犬は育成に時間がかかり、供給は限界に達している。

多くの視覚障害者は、ボランティアや家族の「予定」に合わせて外出するしかなく、「思い立った時に一人で出かける」自由がない。



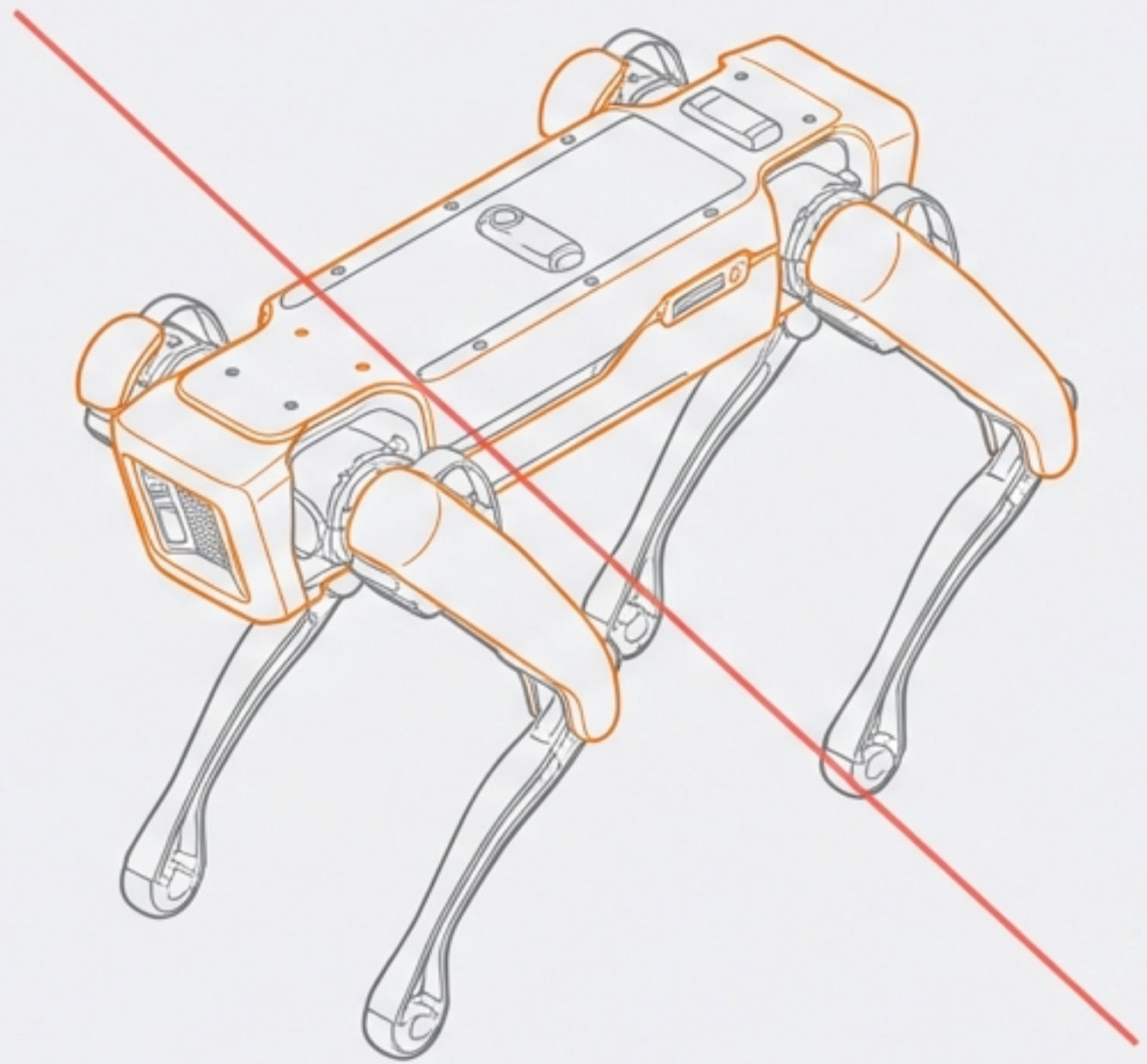
情報の断絶：本屋で 「立ち読み」ができない

現在の限界：

- 音声読み上げソフトは、複雑なレイアウト、縦書き、ルビに対応できない。

切実なニーズ：

- 「この本は何か？」を瞬時に知り、興味があれば中身を要約する。
晴眼者が無意識に行っている「ブラウジング」の権利を取り戻す。



- 価格：約800万円（補助金必須）
- 視点：低い（人混みで見えない）
- 形状：場所を取る

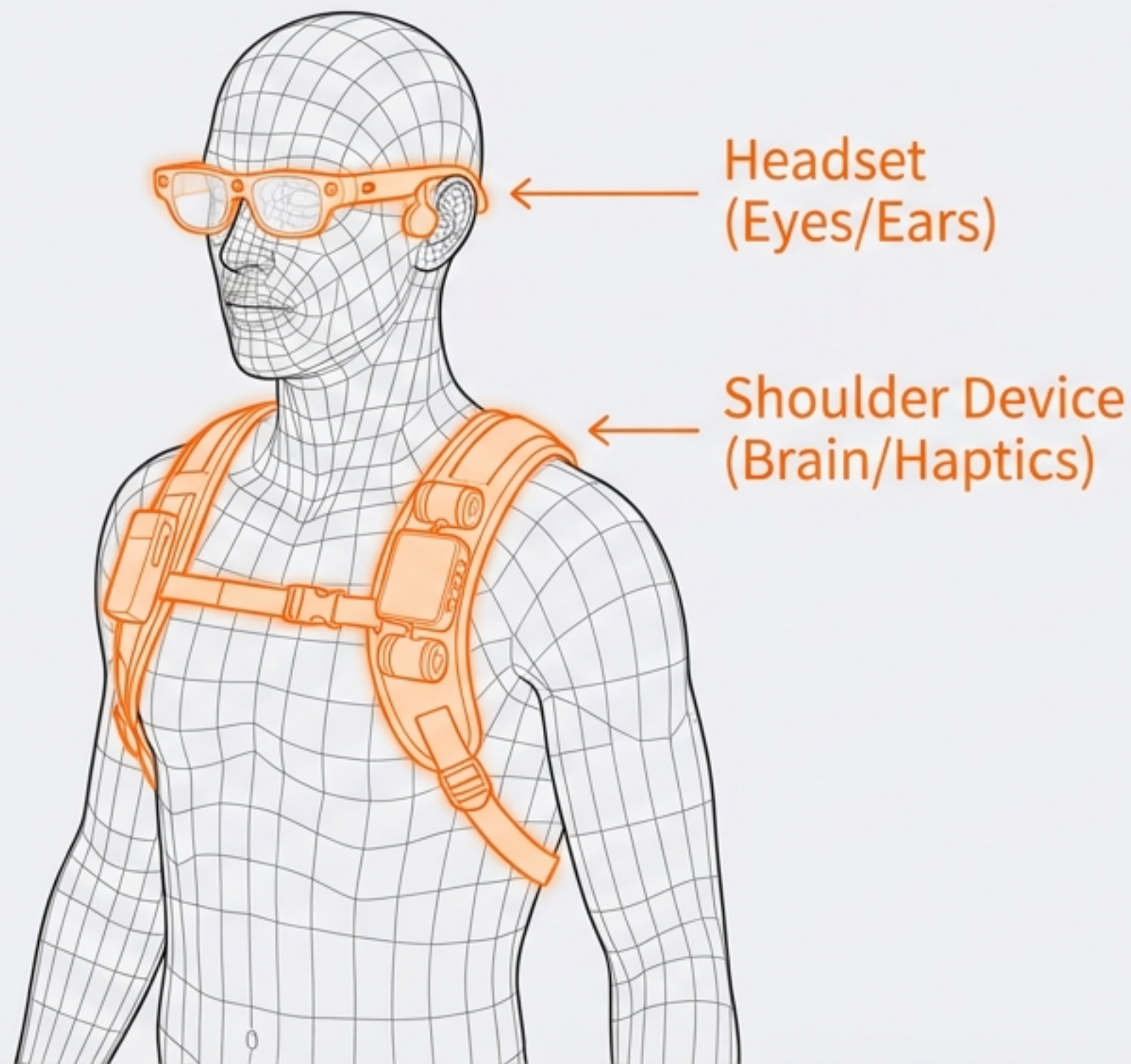
なぜ「ロボット犬」では解決しないのか

我々が必要なのは「ロボットの犬」ではない。「視覚障害者の外出をアシストする機能」である。

既存のロボット犬は高額すぎて市場が広がらない。また、「犬の目線」では高い位置の看板や人混みの状況を認識できない。

解決策：「着る」デバイスへの転換

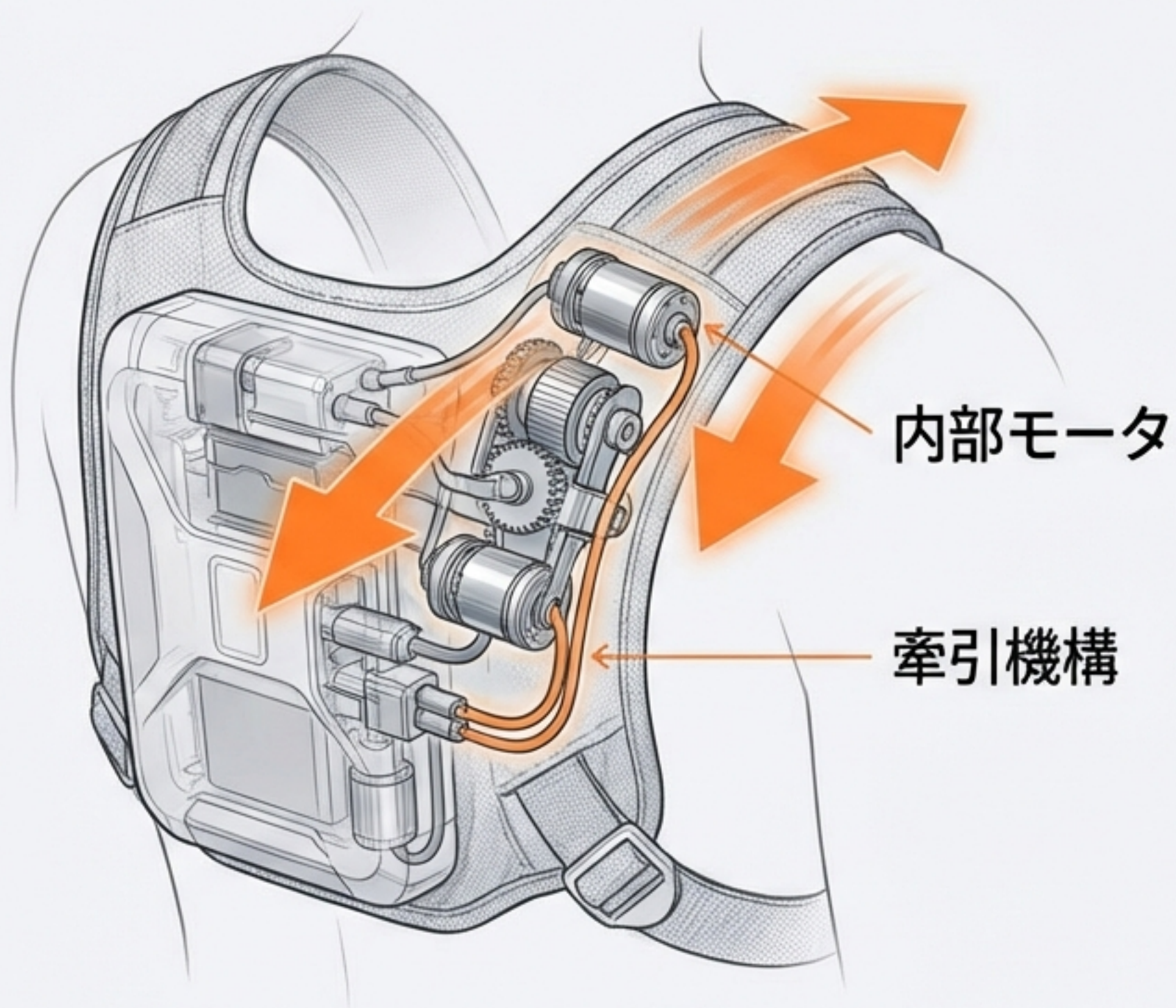
Wearable, not Walkable.



- **フォームファクタ**：ヘッドセット + 振動・牽引機能付きショルダーベルト（背負子）。
- **場所を取らない**：足元に実体がないため、満員電車や狭い店でも他人の邪魔にならない。
- **自由な視点**：人間の目線で情報をキャッチし、高い位置の看板も認識可能。

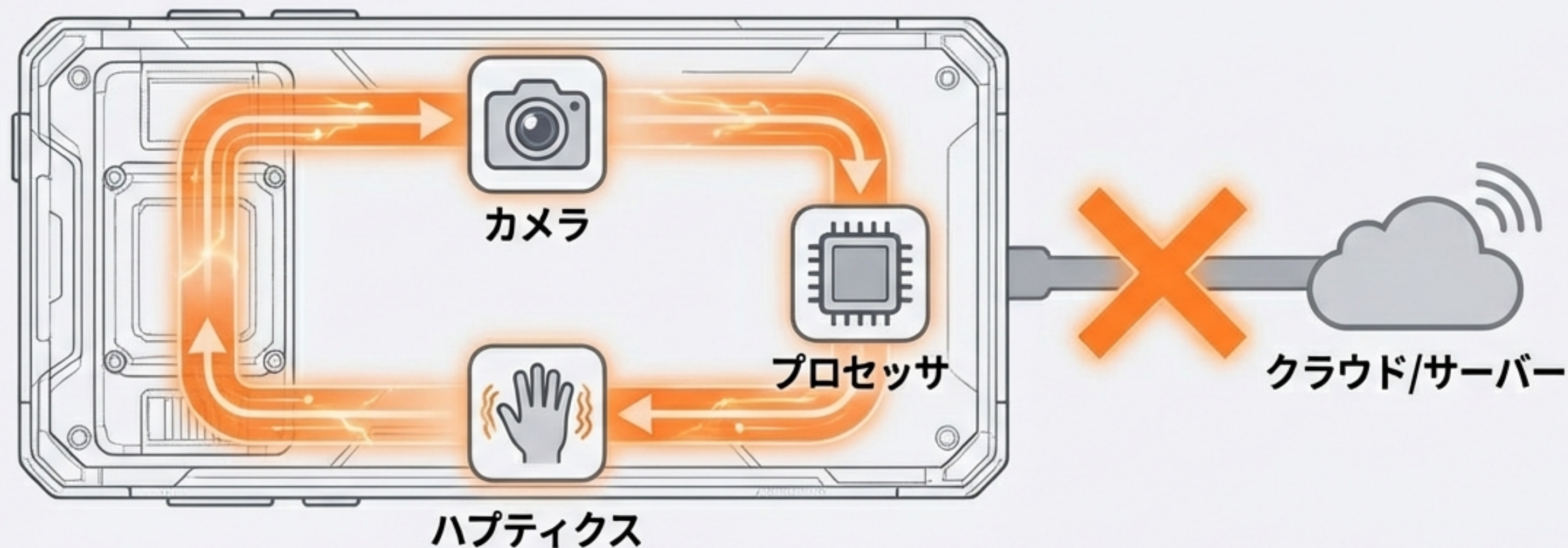
独自の物理UI：「引かれる」直感

Precision Humanism



- **リードの再現**：ショルダーベルトに内蔵されたモータが、物理的に「グイッ」と肩を引く。盲導犬のリードの感覚をシミュレート。
- **反応速度**：「あぶない！」と声で聞くよりも速く、体は物理的な刺激に反応する。脳の処理を介さず、反射的に危険を回避する安全設計。

完全ローカル実行：命を預けるための条件



➤ ゼロ・レイテンシー

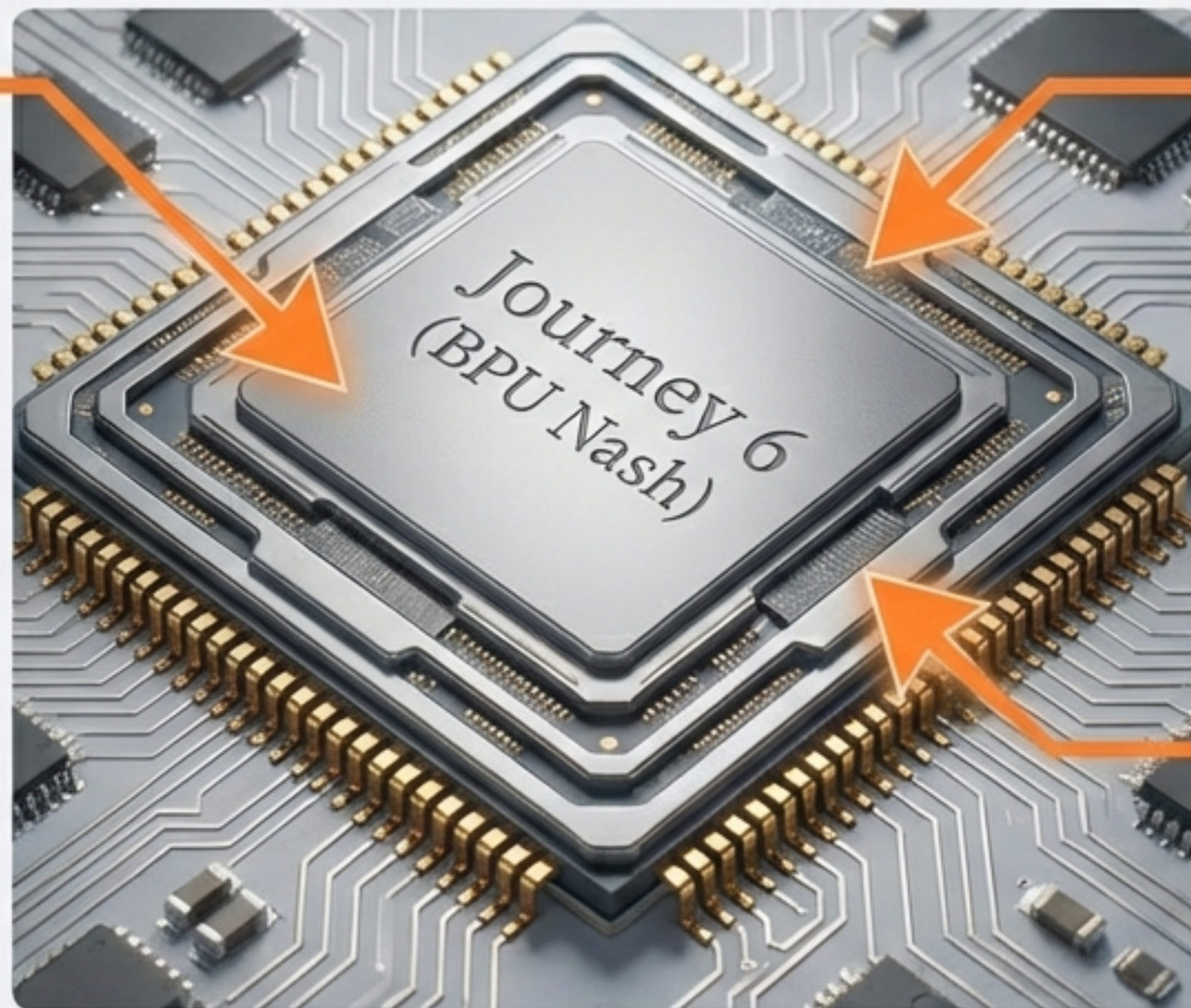
通信圏外でも動作し、サーバー遅延によるタイムラグが発生しない。瞬時の判断が生死を分けるナビゲーションに不可欠。

➤ プライバシーの要塞

カメラ映像や会話内容をクラウドに送信しない。生活の全てを記録される懸念を排除。

心臓部：なぜ「Journey 6 (BPU Nash)」なのか

Transformer特化
(Attention計算の
ハードウェア加速)



ワットパフォーマンス
(10W~15Wで高演算)

車載グレードの信頼性
(ASIL対応)

NVIDIA Jetson等と比較し、LLM/VLMの核となるTransformer処理に特化。
ファンレスに近い小型化と、自動運転レベルの安全性を両立。

マルチモーダルAI：耳、目、そして口



耳 (Ear)

****Local Whisper****

騒音下でもユーザーの声をリアルタイムに文字起こし。



目 (Eye)

****End-to-End VLM****

カメラ映像を直接解析。障害物、信号、人の表情を統合的に解釈。



口 (Mouth)

****Local LLM (Llama 3 quantized)****

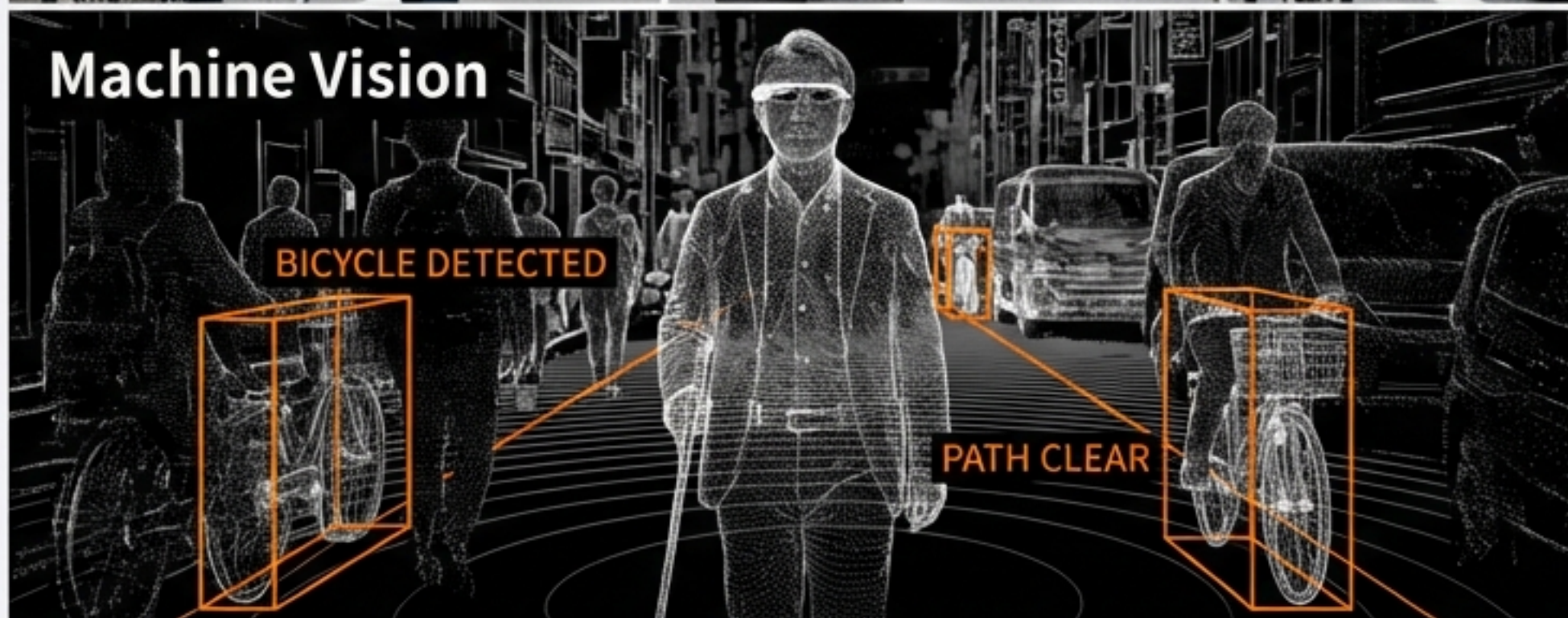
自然な対話。「あの店の入り口はどこ？」「この本の内容は？」に即答。

ユースケース：自律歩行（Navigation）



Before: ボランティアの予定に合わせて気を使って外出。

After: 思い立った瞬間に、一人で知らない街へ。



→ Interaction: ユーザー「駅はどっち？」→ AI「右方向です。前方から自転車が来ています（ベルトが右に引かれる）」

ユースケース：読書体験の再発明

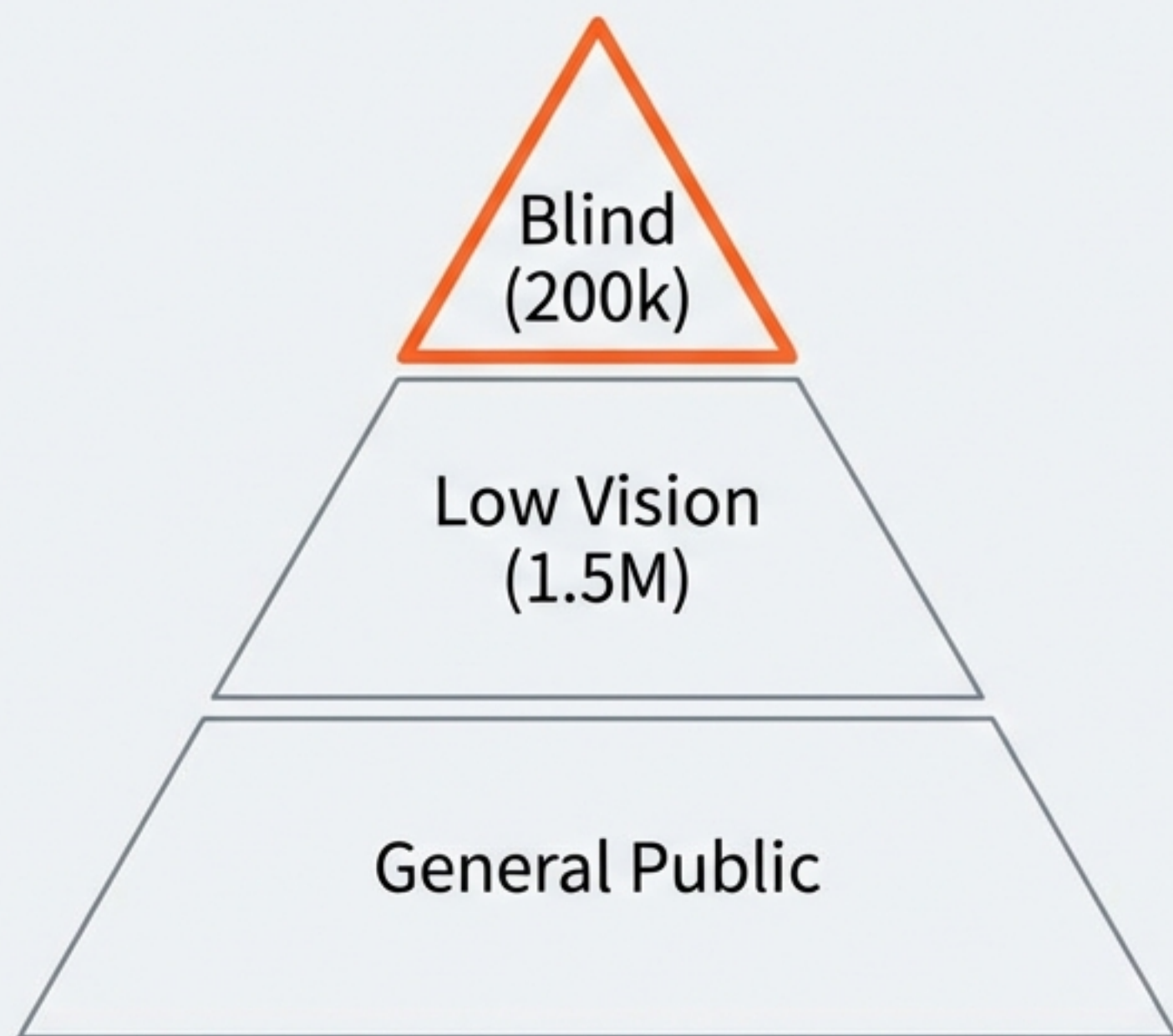


Before: 本屋に行っても、どんな本かわからない。

After:
手に取った本を見つめるだけ。

Capability:
縦書き、ルビ、段組みをAIが瞬時に理解。「これは『技術の歴史』という本です。中身を要約しますか？」と解説。

市場戦略：補助金に頼らない普及モデル



ターゲット：日本国内20万人、世界人口の0.5%。

価格戦略：目標価格50万円以下。盲導犬（育成費用数百万円）やロボット犬（800万円）に対し、圧倒的な価格優位性。

流通：補助金申請の複雑さを回避し、一般家電のように購入可能にすることで普及速度を最大化。

市場の拡張：F.R.I.D.A.Y. for Everyone



視覚障害者から全ての人へ。「歩きスマホ」をしたくない全ての人々へ。

パーソナル執事：映画『アイアンマン』のAI「F.R.I.D.A.Y.」のように、視界を共有し、常にアドバイスをくれる存在。

新機能：「飯セCOND」（食事のアドバイス）、リアルタイム翻訳、観光ガイド。

「できない」を「自由」へ。

30年前の夢は、今、現実の技術となった。
視覚障害者の「自由」を取り戻し、人類の「知覚」を拡張する
この事業に、ぜひ参画してください。

BeesNest LLC
【Contact Details】